

学校教育目標	「自分が輝く みんなも輝く」							
	○自分から進んで学び、経験や知識を活かしていく力を育てます。(知) ○自分を大切にし、人に優しくできる心を育てます。(徳) ○自らの健康を見つめ、体力を高め、たくましく生きようとする態度を育てます。(体) ○丸山台のまちを愛し、よりよい地域や社会に向けて自分の役割を果たそうとする態度を育てます。(公) ○広い視野をもち、未来に向けてともに生きていく力を育てます。(開)							
学校概要	創立 39 周年	学校長	新井篤志	副校長	青柳英樹	2 学期制	一般学級: 12	個別支援学級: 2
	児童生徒数: 404 人		主な関係校: 丸山台中学校 野庭中学校					

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	丸山台・野庭中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力>	丸山台中学校 野庭中学校 下野庭小学校 野庭すずかけ小学校	○いつでも元気よくあいさつできる子ども ○自分も仲間も大切にできる子ども ○すすんで学習しようとする子ども ----- 小中の連携を深め、授業力の向上を目指して ・授業参観および研究協議の機会を年4回設定します。 ・担当者会議を年5回設定します。 ・小中職員が一堂に会する合同研修会を年1回設定します。

中期取組目標	○子ども一人ひとりを大切に、「チーム丸山台」として全職員で活気と魅力ある学校づくりを目指します。 ・自分からめあてをもち、自分らしさを発揮しながら夢中になって問題解決する授業づくりに取り組みます。 ・異学年、異校種交流や地域との連携を大切にしながら、自尊心や自己有用感を育み、コミュニケーション能力を高め、誰もが安心して豊かに生活できるようにします。 ・まちや社会で働く人との出会いや学びを通して、自分の将来への夢や希望をもって生きようとする態度を育てます。 ・『食』の学びを中心に、健やかな体と豊かな心を育むとともに、広く社会に目を向け、共に活動する姿勢を育てます。
---------------	--

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく力	①学習状況調査の結果から明確にした各学年の重点課題を共通理解し、計画的に教科指導を行う。問題解決的な学習で意欲を高め、基礎基本の確実な定着を図りつつ、身に付けた知識を活かす活動を取り入れる。 ②自分の思いを伝えるとともに、対話して問題解決に向かう力の育成を図る。
豊かな心	①夢中になって問題解決に向かう子どもたちを育てるよう、重点研究を進める。 ②社会や集団の中での役割を意識できるよう異学年交流を中心にした交流を行う。また、思いやりや共生の心を育てる『食』の学びの指導を、系統的に行う。
健やかな体	①体育では、運動特性に沿った指導をもとに、子どもが見合い教え合いながら動きを高める場の設定を重視し、充実感や達成感を味わうことができるようにする。②保健学習では、食生活のあり方も含めたよりよい生活習慣を主体的・対話的に考え、健康の保持増進を自ら図る態度を養う。
特別支援教育	①ユニバーサルデザインの視点から学習環境を整える。特殊音節の読み書きの獲得を円滑にするために研修したり、実践したりする。②教育支援計画、指導計画を定期的に見直し、一人一人の支援に生かしていく。職員会議での情報共有を行い、必要に応じて校内委員会で検討する。
児童生徒指導	①一年を四期に分け、ステップアップカード等で成長が継続して見られるようファイリングし、目標をもったり、振り返ったりすることで、自己実現の力を育てる。②配慮を要する児童の実態や支援の方法、「学校生活のきまり」を共有することで、一貫した指導ができるようにしていく。
地域連携	①商店会・自治会・長寿会・幼保小交流・農協など、学習に関係する地域との連携を大切にする。 ②保護者や地域の方々との協力体制をさらに整え、地域の材を活用した学習についてよりよい時期や内容、方法等を検討し、児童や教職員が積極的に参加できるようにする。
自分づくり教育 (キャリア教育)	①「食」とのつながりを知り、感謝の気持ちをもつとともに、食の安全安心と課題について知る。 ②地域の人々と関わり、様々な職業について考える機会を設けるとともに、自分たちが住むまちのよさや伝統に気付くことができるようにする。
いじめへの対応	①職員間での情報共有を密に行い、いじめ防止対策委員会を中心に組織的に対応する。 ②年2回行うY-Pアセスメントや児童アンケートにより、些細な変化を見逃さない体制づくりをする。自他の違いを受け止め、お互いの人権や尊厳を大切にする指導を行うことで、未然防止に努める。
人材育成・組織運営 (働き方改革)	①若手によるメンターチームを組織し、全教職員で研修内容を共有し、人材育成に取り組む。 ②三部長と管理職で課題を共有し、各部で組織的に課題解決に取り組む。 ③会議の終了時刻を設定し、事前に内容を共有する時間をとり、効率を上げる。グループウェアの活用を徹底し、打ち合わせ時間の短縮や伝達の効率化を図る。

具体的取組	
131	<131
110	<131
130	<131
127	<131
130	<131
123	<131
110	<131
0	<131
131	<131
149	<151